



左「名残の夢」 油彩・キャンバス・白金箔606×728 2019年 思文閣本社/個展会場（京都）撮影・市川靖史
 右「杜若」 油彩・キャンバス200×200 2019年 思文閣本社/個展会場（京都）撮影・市川靖史



「杜若」 油彩・麻布・パネル1700×1600 2019年 思文閣本社/個展会場（京都）撮影・市川靖史



「夜を視る 夜を聴く」 油彩・麻布・パネル・黒箔・金箔 各300×300 2019年
 思文閣本社/個展会場（京都）撮影・市川靖史



「夜を視る 夜を聴く」 油彩・麻布・パネル・黒箔・金箔 各300×300 2019年
 思文閣本社/個展会場（京都）撮影・市川靖史

冬の夜に浮かぶ月や星々の瞬きは地に仄かな影をもたらし、月の青い光や地の影たちが交差して夜の神秘が幾つかのドラマを作り始める。深夜のアトリエで私の視覚の願望が誘った蓮や竜や杜若は夜の深淵のなかで戯れ、キャンパスの世界を自由に飛び交う。三〇〇角のパネルに黒箔を取り入れ、縦・横・千鳥など配列も自由に組み合わせた。密やかに動く気配を求めて。